

2015.4.10

今日の1限目、この場で教えていただいた「カタルタ」を使って、自己紹介タイムをやってみました。入学式から3日目です。都合があって、学級役員を昨日、先に決めてしまった経緯もあり、何となくガチガチの緊張感がほどけつつある感じになっていて、「今さら、延々と『よろしくお願ひします』連発を聞くのもピンぼけな感じでしょう？」と言うと、それもそうだな～な雰囲気。上手い具合に乗っかって来てくれました。まずは「清掃班内全制覇」次に「男女別名刺交換会」…で、時間を切ったところで自分が持っているカードの数字を5で割った余りの数によって5つに班分け。これで、野外活動の男女混合班分けが実に自然に完成。そして、この班で「ウソ自己紹介」で盛り上がり、キャラが見えてきたところで、班長や係決め。他者との関わりがちょっと苦手な生徒も、互いのやりとりの中で周囲が上手く巻き込んで行ってくれている様子もうれしい。

前を向いて静かだった昨日までとは打って変わって、2限目以降、休憩時間が賑やか！ あっという間に男女が自然に話せるようになって、効果は絶大でした。(4組だけ何であんなに明るく自然なの？と他の先生からも。)私も楽しかったです。

カードをめくったときに出る語を見て、「ええっ、これは難易度高いな。」なんて言いながら文をひねり出している場面があり、何でもかんでも「ちゃうねん」と「けど」と「なので」で日常会話を済ませている彼らには、話す、聞く、どちらの面にも、ちょっとした刺激になったと思います。その時間の後のHRで、少し、単位や履修、修得の話をしたのですが、そのときに「つなぎのことば」を意識して話を聞けば、次に何が出てくるかの予想が立つ、などと、授業で話を聞いたりノートを取ったりするテクの話にも、何となく上手いタイミングで乗っけることができ、面白かったです。

2015.4.29

「カタルタ」ネタ第2弾。6月の文化祭に向けて、1年生はリアルな物作りまたは映像作品を手がけます。生徒達の希望で映像部門にエントリー。で、オリジナルストーリーづくりや、映像の場面転換に「カタルタ」を活用することになりました。主体的な名乗りで役割分担があっという間に決まって、担任の私の方が「ほほーう！」とびっくり。実際に自己紹介を体験した子供たちが、このカードに秘められた可能性やワクワク感を形にしてみたい、これならできるんじゃない？と感じている様子が伝わってきて、これからどうなるのか楽しみです。

2015.6.6

「カタルタ」ネタ第2弾続報。つなぎ言葉の書いてあるトランプ「カタルタ」を場面転換や登場人物の気持ちの変化に利用したドラマを制作することになった文化祭クラス企画。

①入学直後にカタルタで決めた野活の班を使って、クラス全員でカタルタストーリージャムを展開。前もって募集した出だし文から一つを選んで、どの班もその後の展開をカタルタをめくりながらリレーで作っていきます。各班に1台ノートPCをあてがって、文字入力の早い子にエクセルのシートに班員の言葉をどんどん入力してもらいました。ところが、「映像になるストーリーにする」、これがナカナカ難しかった！！というのも「できごと」を綴っていけばストーリーになっていくのに、彼らはどうしても「内なるキモチ」をぐずぐずと語り繋いでしまうんですねー。そうすると登場人物も増えていかないし起承転結もつきづらい。

②でもでも！寄れば文殊の、です。全部の班のを寄せ集めて繋いだり入れ替えたり、シチュエーションを変えたり合わせたり、とやっていると、なんだかちゃんとストーリーに！

③骨組みができたストーリーに「シーン決定チーム」が肉付けをしていきます。場面の様子を決めたり、やできごとの必然性やつじつま合わせをして。ワイのワイのと言い合って、これまた端で見ていて面白い時間でした。この話し合い、はじめに決めたこの役割分担のメンツ以外に、編集の担当者や撮影役が「自分も入った方が良くと思うんだよね」と自主的に参戦。…すごいじゃん。

④シーン表ができあがり、次は「配役決定チーム」が配役を交渉して決めていきます。並行して「スタイリスト」が衣装小道具などの調達、「音源チーム」がPC室で著作権フリー無料音源のダウンロード作業を開始。この頃から、もう、教師の参与は要らなくなってきました。

⑤いよいよ「撮影チーム」と役者で撮影開始。天気予報を見て、屋外シーンを先行撮影したり、塾がある、試合だ(県総体の時期!)という子の都合も聞きつつ、その日の撮影シーンを決めて終礼でてきぱきと連絡している様子も楽しい。部活にも配慮して、撮影オフ日も作ったりしてる。ポスターやクラスTシャツづくり、並行して

いろいろ進んでいます。

おとといのLHRでは「みんながおる時に授業シーンの撮影！」だそうで、へえ、先生役はだれ？と聞くと、「え、先生役は先生です！」とのこと。ありやま、突然ですか。

このドラマ、「シナリオ」がありません。あるのはシーン表だけ。その場のノリでそのシーンを作って行っちゃうのです。で、授業なら板書があるやん、と誰かが言うと、苦手がある一方で数学大得意な子があつという間に今日の数Aの板書を再現！！すかさず「Kセンサーよりも分かりやすいやん！」と声が飛ぶ（あつたかいね、感謝）。同時に別の子が生徒が書いた解答板書もコレまたきつたない字でそれっぽくあつという間に完成。この瞬発力、いいなあ。

しかたがないので、私も「そんじゃあ理科の先生やめて数学になるわ」と、エプロンを外して参入。テキトーに当てたりしてやり始めたら「えーセンサーめっちゃ授業やん」と笑う（そこで受けてどーする…）ので、「ハイハイ、授業は趣味ですから」

あー、楽しかった（笑）！ 入れてくれてありがとう。

監督のアイデアでカタルタをめくるシーンも撮っていて、実際の場面転換に使われる模様。昨日PCに吐きだしたら、ビデオクリップが110個もできていました。まあ、ゴミもあるでしょうけど。

来週はしゃかりきに編集だね。

「行き当たりばったり」でドラマを作る、と、最初に生徒会に申請したときには「それではダメです」と突き返されてしまったのですが、「用意周到に行き当たりばったりを実現させる」という企画にして、そのノリでホントに動いている子らが面白いです。久しぶりにワクワクしています。（長く書いてしまいました。お読みいただいた方、ありがとうございました。）

2015.6.14

「カタルタ」ネタ第2弾続報その2～文化祭おわりました～完成しました！オープニングから本編、NG集、エンドロールまで含め、上映時間18分の大作ドラマ。何と「予告編」まで作っていました。

編集スタッフのスキルの高さだけでなくチームで分業してそれぞれが「こだわり」のある仕事を時間内に形にしようとする意識に感心。こういうことが好きな子が1人で抱えてやっちゃう、ってことになるんじゃないかと思っていたら、全然違いました。「こうしたい」の方向性の共有や「他者の仕事を認める心」がなければこうはなりません。時間さえあればもっとやれる、という思いもあつたでしょうが、間に合わせることも大切。

場面転換にカタルタをめくって「つなぎ言葉」を出していく、結構短時間で撮り終えてきたので単にめくるところを撮影したのかと思いきや、背景も見せ方も次の場面に応じて選び、落とす、はじく、ポケットから出す、物に乗せて順に映す…、前後のシーンに合わせて多彩な見せ方で飽きさせなかった。ほおお、と、うなる。カタルタにはこういう、人のインスピレーションを引き出す力があるんだと、実感しました。

フツウの感じを出したいから、と、シナリオなしで、シーン設定だけ確認して登場人物も背景の人物も動いてしゃべって撮っていくスタイルを選んだ彼らが、本当に「行き当たりばったり」でもそれなりにシーンを作り上げていったことにも感心。やりたいことをその場で共有しないと決して成立しないことだから、これはうれしかった。

「今日の『撮影シーン番号』」が後ろの黒板に書いてあって、後半には「撮影済み」「未撮影」に囲みを分けて移していく方式も登場。屋外、教室、人数の要るシーン、できる日に、映画みたいにシーンをバラバラに撮って、最終的に150ものカットができていて、どうするんだ、と思ったけど、編集チームがバサバサ英断して選んで、それがちゃんとつながった。

1日間（本校の文化祭は1日だけ）で9回上映。どんどん暑くなる上映会場、当番の生徒達が客寄せ用に作った段ボールのボードを使って一生懸命おおぎ続けていました。入場者が300人を越え、映像部門で1位も取って、終礼でクラス全員で最終上映会をして大拍手。気分よかつたんでしょうね、あと片付けが驚くほどテキパキしていました。

仕込み、ということばがあつて、教育現場でもよく使われます。今回、入学直後の彼らに、「カタルタ」というツールを持ち込んで「面白いやん、これ」という体験をさせたこと、「仕込み」のはじめはこれだったわけですが、その後、このツールを巻き込みつつ、こんな展開になるなんて、持ち込んだ担任も予想すらしていませんでした。どんな文化祭にも、こういう「うれしい感じ」はあつて、だから先生って仕事がやめられない、ってなモンですが、でも、今回はほんとうに、楽しかったです。

「カタルタ」面白いですよ！（またまた、最後までお読みいただきありがとうございました。）